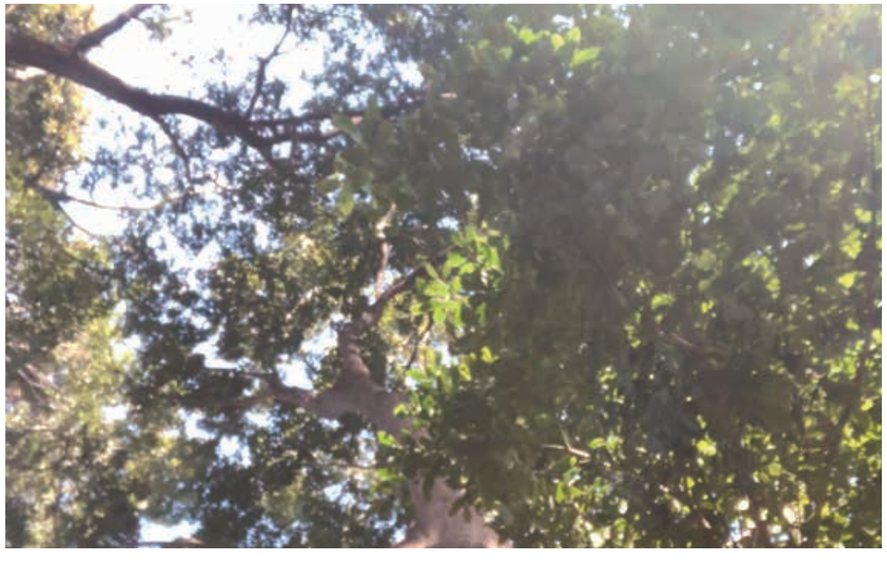
SHIINOMIEN 20th ANNIVERSARY!

多くの皆様に支えられ、2022年4月1日にしいのみ園は、開所から20周年を迎えることができました。



基本理念

親亡き後の子供たちのため、国際社会、地域社会で人間らしく、安心・安全・共生できる心豊かな施設づくり





しいのみ園は、千葉市緑区の自然に囲まれた
素晴らしい環境のもとで誕生しました。

利用者様が、その人らしい豊かな人生を
自己実現できるよう支援することに努めました。





基本理念に則り、全職員が心ひとつにして
利用者の皆様の支援を開始しました。

障がい者支援施設しいのみ園の名前の由来

野や山に捨てられた小さなしいのみは、落ち葉の下に埋められ、人や獣に踏みにじられているけれど、これに水と太陽の光と心温かい環境を与えれば、必ず芽を出してくることから、障がい者の方も温かい愛情を注げば、健やかに成長することを念じ、「しいのみ園」と名づけました。



社会福祉法人 心友会
理事長

武田　昇

法人認可20年を記念して

皆様には常に、障がいのある方、ことに知的な障がいのある方および精神に障がいのある方に対して、施設は勿論のこと地域での安心安全共生できる普通の暮らしの推進の為、心からなるご尽力を賜り御礼を申し上げます。

当法人は、平成１４年（2002）３月２０日に千葉市から法人認可を受け、翌年平成１５年４月１日に千葉県千葉市緑区高田町に知的障害者入所更生施設「しいのみ園」開所（入所定員５０名短期入所８名）に始まり２０年の節目を迎えました。
心から嬉しく思うと同時に一層社会福祉法人の責務を果たし社会貢献に邁進する所存で御座います。

ところで私ども社会福祉法人心友会設立の趣旨を少し述べさせていただきます。
『心友会』の名称は、その名称の通り「心の友」に根ざしています。

知的障がいや自閉症、それに知的障がいとダブルハンディを負った重い障がいの子供は、教育や福祉の恩恵に預かることの少ない時代にあって、それら子供を持つ親は日夜悩まされ子供の将来は暗く絶望感に支配される毎日でした。

親の心を大切に思い又親亡き後の子供たちのため、少しでも人間らしい生活、友達づくり、運動やレクリエーション、作業、ショッピングのチャンスなど、施設に収容するだけの場を設けるのではなく、地域社会・国際社会に開かれた居場所づくりを目指して、障がい児者の福祉施設の実現を切望いたしました。

当時、心友会発起人の一人であった（故）海老原武雄理事【熊ケ谷障害者親の会元会長（高見家の遠戚）】、（故）武田絢子（養父母の叔母）など障がい児を持った親族たちの意欲が高まり、（故）入江是清医師（元心友会理事）や（故）加藤孝正理事（同朋大学福祉学科教授、社会福祉法人親愛の里理事長）に相談しご協力を頂きました。

（故）加藤孝正理事は平成8年に長野県松川町に知的障害者入所更生施設を開所されています。

私は見習学習の為、長野県松川町（親愛の里）に何度も出向き（故）加藤孝正理事と入所施設の立ち上げ、運営、経営の実態を直視いたしました。

その後、千葉において、障がい児者を持った親族たちと（故）加藤孝正理事（故）入江是清医師を中心に、私を支えてくれた中嶋郁夫弁護士、中嶋ヒロ子奥様、江口英彦弁護士、笠原俊也弁護士、
三井田信二特定社会保険労務士、その他大勢の方々に支えられ、自己資金を投入し、法人と福祉施設の設立ができました。

私たちの施設・事業所は障がいを持つ人であっても個人として尊厳をもって、その人らしく地域で共に生きていくため、いつも理念の確認と実践を積み重ね、市民として地域の中で暮らせるように支援していきたいと強く願うものです。





社会福祉法人 心友会
顧問

中嶋　郁夫

20年間を迎えお目出度う御座居ました

心友会発足から、無事に20年間を迎えお目出度う御座居ました。

発足当初、誰を理事長にお願いするのか思案していたところ、幸いにも入江是清先生が日本生命で知的障害に関する講演があることを知り、この講演を聞いたところ、武田理事長の理想とする考えと一致するので、是非心友会の理事長に推薦し、講演終了後、入江先生に直談判したところ、快諾を得たことが昨日だったかのようです。

武田理事長は、日頃より、「親亡き後のこどもたちの為」という目標をたてて今日まで信念と情熱をもって心友会に関係ある利用者・従業員をリードされて来たことに敬服するばかりです。

但し、この20年間、必ずしも家族間・従業員間で一致団結していたと思えない出来事が山積するも、その度毎に解決し、心友会組織も拡大し、利用者188名、従業員161名と大所帯に発展しました。

今では、発足当初予想だにしなかった韓国人、台湾人、フィリピン人も従業員として就職し、その数18名と、心友会の母体を支えて、国際化の一翼を担っています。



社会福祉法人 心友会
理事

中嶋　ヒロ子

しいのみ園開所20周年によせて

しいのみ園の開所20周年、誠におめでとうございます。

一口に20周年と言いますが、開所以来、尽力していただいた理事の方3名がお亡くなりになりました。20年という年月の長さを感じます。

この長い歴史には、ひとえに武田昇理事長の「親亡き後の子どものために地域と共に」のスローガンのもと全人生をかけた熱意と努力があっての今に通じ、先見の目を持って、改革・発展を目指す武田理事長の姿勢がありました。

日本で介護する人の減少をいち早く見込んで、海外からの受け入れを取り入れられ、日本という異国の慣れない土地での生活を安心・安全に暮らしていける様、日本語習得、資格試験の取得援助等、利用者・介護者の両方にとって最善の環境を与え続けられました。韓国、フィリピンからの介護者が増え続けています。

私は、この素晴らしい施設で理事として20年間活動してきた事を誇りに思っています。そして、これからの20年が、ますます発展していく事を祈念しています。



今をみつめ、未来をつくる



地域統括管理責任者
高見　正

私が入職して丸18年を迎えようとしています。思い返すと福祉情勢が大きく変わり、職員体制も変化していく中で常に現場と向き合ってきました。そして2019年12月に新型コロナウイルス感染症が武漢市で発生し3年が経ち、現在は激動の波にのまれることなく、また元の生活に戻るのでもなく、新しい時代へと適応するよう奮闘しているまっただ中です。その中で、幾度も『幸福』の在り方を考えることが多くありました。

これからは、100年先まで継続していく法人運営を目指し、3つの幸せを掲げ『愛』を中心とした一貫性ある事業継続・挑戦をしていきます。1つ目は、お客様の幸せ。2つ目は、職員の幸せ。3つ目は、地域の幸せです。

これまでご支援いただいた企業、福祉関係施設、保護者、ボランティアの皆様には心から感謝いたします。そして利用者・保護者・職員・地域のため、また福祉の発展のために今後も、引き続きご支援ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

思い返せば



ともたかだ管理者
中根　慶太

平成15年にしいのみ園を訪れた時の記憶を今でも鮮明に覚えています。森の中をくぐり抜け突如現れたピンク色の大きな施設に圧倒され、同時に新しい施設で働けるという、ある種の興奮を覚えました。

20年前と比べると、職員構成が大きく変わっていることに気が付きました。韓国、フィリピンといった国から多くの職員を迎えられていることは、これからのしいのみ園の強みになることは間違いないと私は確信しています。一方で、しいのみ園利用者様については、創設当時から大きな変更はなく、冗談まじりに「お互い歳とったね」なんて言い合うこともあるくらいです。

思い返せば、しいのみ園に関わらせてもらってから20年、私はしいのみ園のことを全て知っているし、同時にしいのみ園は私の全てを知っています。しいのみ園の老朽化による修繕や拡張工事、私の結婚や出産、育児、怪我や病気、これからも色々あるかもしれないけれど、お互いに見守っていけたらと思います。



学んだ知識をつなぐ



ともみやこ管理者
岩沼　圭子

月日が過ぎるのは早いものです。私と心友会との出会いは、しいのみ園こころがオープンする頃に遡ります。当時パート職員だった私が、利用者様達の生き生きとした様子を見て、むしろ支援する私の方があたたかな気持ちになり、支えられている感じがしました。今でも、その思いは変わりません。

働いていくうちに、心友会の強みが色々わかってきました。まず、利用者様ひとりひとりの特性を考慮した支援を行っていること（決して簡単なことではありません）。次に、行事が多い事（利用者様も職員も一緒に楽しめてしまいます）。そして、支援の質を高める資格取得制度が充実していること（常に学ぶ意識が職員達の中にできています）。また、職員が長く働ける環境を整えていること（育児中や介護中の職員も働きやすい環境です）。

管理者となった今、利用者様のため、若い職員達へ学んだ知識をつなげ、今後は、心友会へ恩返ししていきたいと考えております。

心を開き、自分を拓く

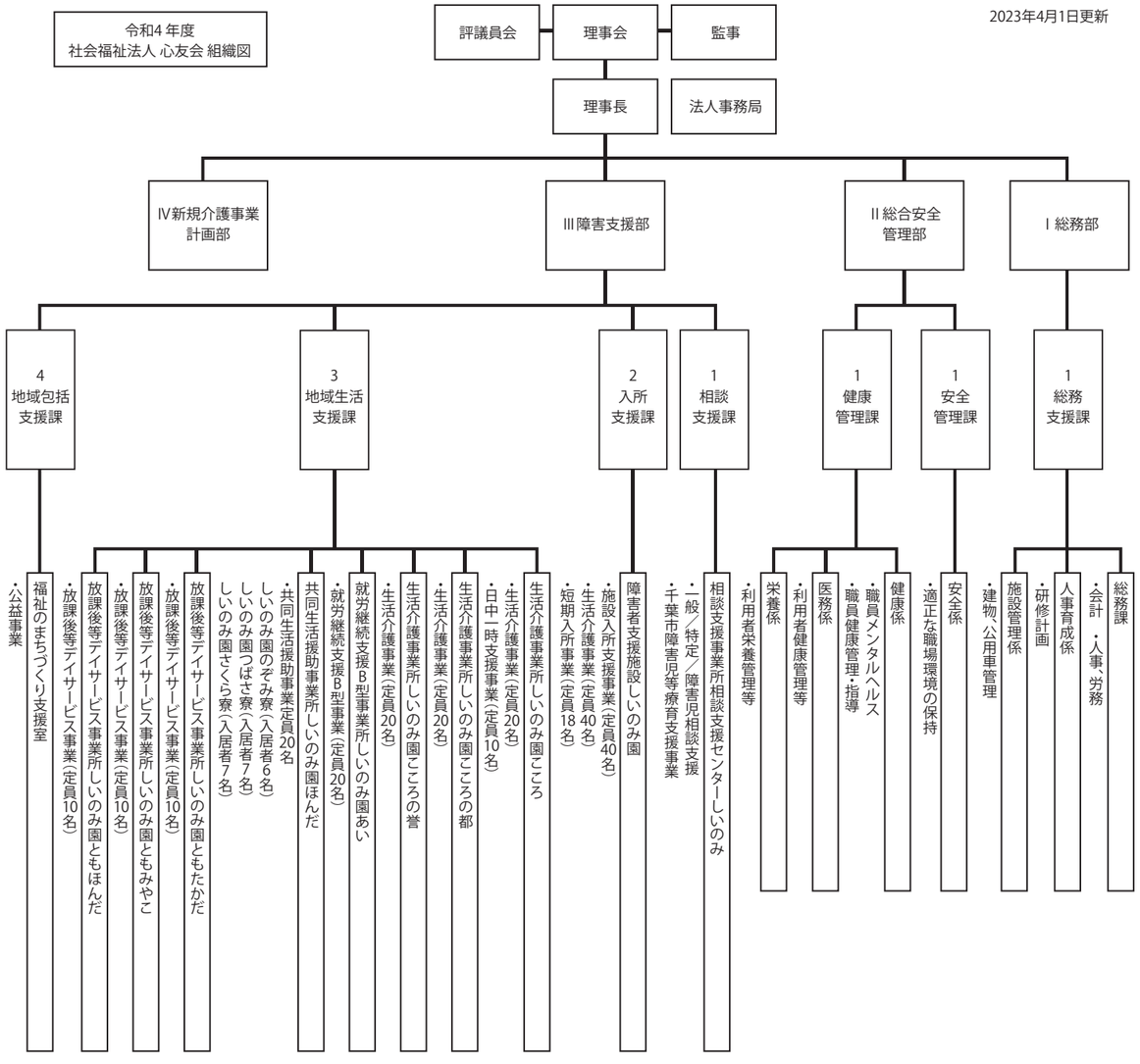


しいのみ園施設長
福谷　章子

知り合いから、評議員として知的障がいの方々を支援する施設を応援してほしいと依頼されたのは設立当初でした。社会福祉への造詣は浅くとも、地域と障がいとをつなぐ役割が果たせればと思い、その役割を引き受けました。あれから20年。心友会は地域にとって、無くてはならない頼もしい存在となりました。私の役割も外部から意見を述べる立場から、地域公益活動を担うまちづくり支援室の室長となり、続いて放課後等デイサービスで子どもたちの支援に関わり、最後の1年はしいのみ園の本丸と言われている入所施設の施設長を担いました。福祉の勉強を重ねて努力をしましたが、施設長を託す法人は心配だったことと想像しています。福祉に関わるものの究極の使命は、利用者様の依存先を増やし社会とつないで彼らの世界を広げることであり、そのためには、支援者自身が社会を信頼し、心を開き自分を拓くことが大切です。待つ・見守る・寄り添う・共に喜び共に泣きながらも支え続ける職員の姿は神々しい。胸を張って未来に進んでください。



組織図





歴代役員のご紹介

≪法人設立当初の役員≫平成14年3月20日

	氏　名		氏　名		氏　名		氏　名
理事長	武田　　昇	理事	入江　是清	理事	加藤　孝正	理事	中嶋　ヒロ子
理事	武田　行子	理事	阿部　信吾	監事	中村　保彦	監事	斎藤　住江

≪法人設立当初の評議員≫平成14年3月20日

	氏　名		氏　名		氏　名		氏　名
評議員	武田　　昇	評議員	入江　是清	評議員	加藤　孝正	評議員	中嶋　ヒロ子
評議員	武田　行子	評議員	阿部　信吾	評議員	中嶋　郁夫	評議員	笠原　俊也
評議員	小川　照雄	評議員	江口　英彦	評議員	奥村　　晋	評議員	廣瀬　淑子
評議員	鹿野　美代子						

≪10周年当時の役員及び評議員≫

【第7期役員】平成24年3月～平成26年3月

	氏　名		氏　名		氏　名		氏　名
理事長	武田　　昇	理事	入江　是清	理事	加藤　孝正	理事	中嶋　ヒロ子
理事	武田　行子	理事	海老原　武雄	監事	中村　保彦	監事	中嶋　郁夫

【第7期評議員】平成24年3月～平成26年3月

	氏　名		氏　名		氏　名		氏　名
評議員	武田　　昇	評議員	入江　是清	評議員	加藤　孝正	評議員	中嶋　ヒロ子
評議員	武田　行子	評議員	笠原　俊也	評議員	海老原　武雄	評議員	福谷　章子
評議員	三井田　信二	評議員	後藤　康晴	評議員	石川　洋一	評議員	平澤　勝弘
評議員	福岡　祐樹						

≪現役員・評議員・評議員選任解任委員≫

令和4年6月～令和6年6月　　理事6名　監事2名

	氏　名		氏　名		氏　名		氏　名
理事長	武田　　昇	理事	中嶋　ヒロ子	理事	福谷　章子	理事	福岡　祐樹
理事	中根　慶太	理事	高見　　正	監事	小川　勝司	監事	山野　　廣

令和3年6月～令和7年6月　　評議員　7名

	氏　名		氏　名		氏　名		氏　名
評議員	笠原　俊也	評議員	三井田　信二	評議員	小峰　敏和	評議員	高村　美奈
評議員	佐渡　賢太	評議員	黒田　明美	評議員	布施　千草		

令和3年6月～令和7年6月　　評議員選任・解任委員　3名　　顧問　1名

	氏　名		氏　名		氏　名		氏　名
評議員選任解任委員（監事）	小川　勝司	評議員選任解任委員（監事）	山野　　廣	評評議員選任解任委員（外部委員）	江澤　　泉	顧問	中嶋　郁夫

≪今は亡き法人の歴史を創った役員等≫

	氏　名		氏　名		氏　名		氏　名
理事	加藤　孝正	理事	入江　是清	理事	海老原　武雄	理事	奥村　晋
理事	阿部　信吾	理事	高見　征一郎				

職員の使命

1. 私達は、常に感謝の気持ちを持ち支援し続ける。

2. 私達は、常に初心に戻り自己研鑽し支援にいかし続ける。

3. 私達は、利用者にとって最善の支援を考え実行し続ける。

4. 私達は、地域の社会資源として、地域とともに歩み続ける。

5. 私達は、福祉の未来を創造し続ける。

心友会は、日本福祉施設士会会員です。

「福祉QC」活動を主体に「福祉サービスの質の向上」に
取り組んでいます。

福祉QCサークル活動の基本理念

1. 利用者の人間性とその尊厳を尊重し、個々の願いや思いに応えた
サービスや環境を提供できるよう、法人・施設の活性化と体質の改善に
寄与する。

2. 職員の人間性を尊重して、生きがいのある明るく活気に満ちた職場をつくる。

3. 職員の能力を発揮し、無限の可能性を引き出す。

目　　次

基本理念	1
理事長ご挨拶 法人認可 20 年を記念して	3
理事・顧問ご挨拶	4
管理者ご挨拶	5
組織図	7
歴代役員のご紹介	8
職員の使命・福祉 QC 活動の取り組みについて	9
社会福祉法人　心友会　沿革	11
第 1 章　設立から実現まで	13
第 2 章　成人利用者の地域社会の実現	21
第 3 章　児童利用者の地域社会の実現	35
第 4 章　障がい者の就労の場の確保	47
保護者会の皆様より	57
第 5 章　国際交流	69
第 6 章　課題	81
第 7 章　将来に向けての取り組み	89
しいのみ園　園歌	99
楽しい とも 放課後等デイサービスの歌	101
編集後記	102



社会福祉法人 心友会沿革

平成10年7月20日	社会福祉法人心友会設立準備委員会立ち上げ　千葉市緑区高田町知的障がい者入所更生施設準備委員会開設
平成14年3月20日	社会福祉法人心友会設立の認可（社会福祉法第32条の規定）　千葉市指令保障第406号
平成15年3月1日	知的障がい者更生施設「しいのみ園」認可事業者番号12100200033318 知的障がい者短期入所「しいのみ園」認可事業者番号12100200033136
平成15年4月1日	千葉市緑区高田町に知的障がい者更生施設しいのみ園開所（定員50名短期入所6名）
平成17年4月1日	児童短期入所認可（定員宿泊6名日中預かり15名）
平成18年4月1日	自活訓練事業認可（定員2名）事業者番号12100200033318
平成18年10月1日	障がい者自立支援法施行に基づく指定障がい者福祉サービス事業　短期入所「しいのみ園」認可事業所番号1210100762
平成19年4月1日	日中一時支援事業所認可（千葉市委託）事業所番号1260100761（定員日中預かり型10名放課後対策型15名）
平成20年6月1日	共同生活介護・共同生活援助事業「しいのみ園ほんだ」認可 事業所番号1220100216運営開始（定員6名）（しいのみ園あゆみ）
平成20年10～３月	障がい者自立支援基盤整備事業しいのみ園デイコーナー増築・新支援員室の新設
平成21年4月1日	生活介護事業「しいのみ園こころ」認可事業所番号1210101653　運営開始（定員20名）
平成21年4月10日	共同生活介護・共同生活援助事業「しいのみ園ほんだ駅前」　運営開始（定員6名）（しいのみ園のぞみ）
平成21年12月3日	韓国学校法人瑞江学園瑞江情報大学交流協約書の締結
平成22年3月	財団法人中央競馬馬主社会福祉財団様 社団法人中山馬主協会様の助成によりしいのみ園1階2階共用部廊下張り替え工事
平成22年4月	千葉市障がい児等療育支援事業認可（千葉市委託）
平成22年7月	児童デイサービス（Ⅱ型）事業「しいのみ園とも」認可　事業所番号1210100762運営開始（定員10名）
平成23年3月	社会福祉法人清水基金様の助成によりトヨタノア購入
平成23年4月	共同生活介護・共同生活援助事業「しいのみ園ほんだ2丁目」運営開始（定員6名）（しいのみ園ひかり）
平成23年4月	生活介護事業「しいのみ園こころの都」認可事業所番号1210102065運営開始（定員20名）
平成23年5月	「しいのみ園とも」「しいのみ園こころの都」事業所へ移動
平成23年11月	財団法人ＪＫＡ様（オートレース補助事業）の助成によりトヨタハイエース購入
平成24年4月	障がい者自立支援法新法移行障がい者支援施設「しいのみ園」 事業所番号1210100762運営開始（定員生活介護40名/施設入所支援40名）
平成24年4月	共同生活介護・共同生活援助事業「しいのみ園ほんだみどり」運営開始（定員7名）（しいのみ園つばさ）
平成24年4月	放課後等デイサービス事業「しいのみ園ともみやこ」事業所番号1250100144運営開始（定員10名）
平成24年4月	放課後等デイサービス事業「しいのみ園ともたかだ」事業所番号1250100136運営開始（定員10名）
平成24年4月	特定相談支援事業所「相談支援センターしいのみ」認可事業所番号1230100271運営開始 障がい児相談支援事業所「相談支援センターしいのみ」認可事業所番号1270100033運営開始 指定一般相談支援事業所「相談支援センターしいのみ」認可事業所番号1230100271運営開始
平成24年4月	日中一時支援事業所（放課後対策型）千葉市サービスの廃止により事業廃止
平成24年7月	社会福祉法人千葉県共同募金会様の助成によりスズキワゴンＲ購入
平成24年7月	障がい者自立支援基盤整備事業しいのみ園厨房/食堂増改築工事
平成25年4月	障がい者総合支援法に移行

社会福祉法人 心友会沿革

平成26年3月	日本財団様の助成によりスズキキャリィ購入
平成26年4月	千葉市障がい者短期入所増床事業定員16名から18名へ変更
平成26年4月	しいのみ園ほんだ共同生活援助事業へ一元化
平成26年6月	経済連携協定（EPA）事業を国際貢献事業として捉え受け入れ準備（平成27年度フィリピン介護福祉士候補2名）
平成27年3月	日本財団様の助成によりホンダステップワゴン2台購入
平成27年3月	千葉市GHスプリンクラー整備事業　しいのみ園ほんだ（あゆみ、のぞみ、ひかり、つばさ）スプリンクラー整備完了
平成27年12月	経済連携協定（EPA）事業を国際貢献事業として捉え受け入れ開始（第一期生）（平成27年度フィリピン介護福祉士候補2名）
平成28年2月	地域包括支援事業「福祉のまちづくり支援室」開設
平成28年3月	29人乗りマイクロバストヨタコースター購入
平成28年3月	日本財団様の助成により しいのみ園こころの都ホンダステップワゴン購入※8人乗り
平成28年3月	しいのみ園大規模修繕工事完了
平成28年3月	千葉市指定障がい者グループホーム整備事業の助成により「しいのみ園ほんだ藤沢」（さくら寮）新築工事完了
平成28年3月	千葉市障がい者グループホーム自動火災報知設備整備補助金により 「しいのみ園ほんだ」（あゆみ寮）自動火災報知設備整備 「しいのみ園ほんだ駅前」（のぞみ寮）自動火災報知設備整備
平成28年12月	経済連携協定（EPA）事業を国際貢献事業として捉え受け入れ（第二期生）（平成28年度フィリピン介護福祉士候補2名）
平成29年2月	日本財団様の助成によりしいのみ園ホンダN-ＢＯＸ購入※4人乗り
平成29年10月	運動場設備工事完了
平成29年12月	財団法人ＪＫＡ様の助成によりしいのみ園トヨタハイエース購入※10人乗り
平成31年3月	しいのみ園ともみやこ千葉県福祉サービス第三者評価受審済み
平成31年4月	生活介護事業「しいのみ園こころの誉」認可事業所番号1210104392 運営開始（定員20名）
令和1年9月	強度行動障がいを有している方のための施設「絆棟」運営開始（定員5名）
令和1年12月	経済連携協定（EPA）事業を国際貢献事業として捉え受け入れ（第三期生）（令和1年度フィリピン介護福祉士候補2名）
令和2年3月	しいのみ園ともたかだ千葉県福祉サービス第三者評価受審済み
令和2年4月	職場の健康管理、安全管理を掲げ総合安全管理部を立ち上げ
令和3年3月	しいのみ園こころの都千葉県福祉サービス第三者評価受審済み
令和3年3月	就労継続支援B型事業「しいのみ園こころ」廃止「しいのみ園こころ」生活介護事業所へ移行
令和3年4月	就労継続支援B型事業「しいのみ園あい」事業所番号運営開始（定員20名）
令和3年4月	放課後等デイサービス事業「しいのみ園ともほんだ」事業所番号運営開始（定員10名）
令和3年8月	しいのみ園こころの誉千葉県福祉サービス第三者評価受審済み
令和3年9月	樹齢60年の桜の木が「ふくろうの森」（仮称）に移植
令和3年9月	経済連携協定（EPA）事業を国際貢献事業として捉え受け入れ（第四期生）（令和3年度フィリピン介護福祉士候補1名）
令和4年2月	財団法人ＪＫＡ様の助成によりしいのみ園ともたかだ日産キャラバン購入※10人乗り
令和4年3月	日本財団様の助成によりしいのみ園ともみやこ日産セレナ購入※8人乗り

第１章

障がい者の子を持つ親が不安に思うことは、自分に代わる子どもへの支援、生活資金、住居の確保、財産管理等、多岐にわたります。このような親の不安の解消と、本人の生活の質を向上すべく、入所者50名とその保護者を迎え入れ、しいのみ園は誕生しました。創設者の思いの実現と、障がい者本人と保護者が安心して生活するため、これからも基本理念に基づいた施設づくりをしていきます。





緑に囲まれた素晴らしい環境のもとで園外活動として、しいたけ栽培を始めました。



室内活動班の活動としてビーズつくりの取り組みを開始しました。



室内活動班では、利用者様の特性に合わせて多くの活動を取り入れました。



園外活動、園芸班の活動の様子です。たくさんの花に囲まれて笑顔も素敵です。



園外活動では、たくさんの野菜栽培を開始ししました。



園芸班では、花の栽培用に温室のハウスを設置しました。



室内活動班では、椅子に座ってできる軽度な活動を多く取り入れました。



収穫した、しいたけの計量も利用者様自ら行っています。



地域の皆様との交流を図る夏祭りなどを通し、地域共生社会の実現を目指しています。



利用者様と保護者の皆様、そして職員が一堂に会しての新年会を開催しています。



ひとりひとりの個性を見つめることが大切だと考えています。



たくさんの笑顔があふれるように。多様性を尊重することも私たちの大切なテーマのひとつです。

第２章

障害者自立支援法の施行により、障がいのある人たちは、施設から地域へ出ることを促されました。地域の一員として生活するために最初の住宅を借り上げる際には、地域の方々に対して丁寧な説明会を開催して理解を図りました。また、街中に生活介護事業所を開設し自治会に加入しました。クリーン活動や地域の祭りなどへの参加を通し、知的障がいのある人達と地域の方々とをつないでいます。





ＪＲ誉田駅から徒歩圏内に住宅を借り上げグループホームの運営開始。写真は、最初のグループホーム「あゆみ寮」外観。



閑静な住宅街に三つ目のグループホーム「ひかり寮」の運営開始。



二つ目のグループホームとして「のぞみ寮」を男性寮として運営開始しました。



四つ目のグループホーム「つばさ寮」外観。隣に大きな桜の木がある好立地です。



五つ目のグループホーム「さくら寮」外観。閑静な住宅街にあります。



グループホームの居室は、プライベートが保たれた個室です。



グループホーム「さくら寮」のダイニングルームです。利用者様の交流の場となっています。



グループホーム「のぞみ寮」のダイニングルームです。利用者様のくつろぎの場所です。



施設内の行事の一コマです。たくさんの行事は、利用者様の楽しみのひとつです。



利用者様一泊旅行。職員、利用者様、保護者の皆様との交流を深める行事のひとつです。



園外活動として地域清掃を積極的に行なっています。



利用者様一泊旅行。伊豆方面への旅行の一コマです。



しいのみ園「こころ」事業所の外観。



しいのみ園「こころの都」事業所の外観。



しいのみ園「こころの誉」事業所の地鎮祭にて。



しいのみ園「こころの誉」事業所の外観。ピンクと緑を基調としています。



「こころの都」事業所での室内活動の様子。



しいのみ園運動会での一コマ。東金アリーナにて。



利用者様一泊旅行の一コマ。鴨川シーワールドにて。



「こころの都」事業所での室内活動の様子。



「こころの都」事業所での活動の様子。空き缶つぶしに取り組んでいます。



しいのみ園夏祭りの様子。こころ事業所を会場にして毎年開催しています。



地域清掃を積極的に行っています。しいのみ園入所施設付近にて。



「こころの都」事業所での室内活動の様子。

第３章

障がいをもつ小学校1年生から高校3年生までの方達の、療育的支援や社会参加を目的として事業所は誕生しました。特に私たちが重視しているのは、支援の統一です。1日の中で学校、家庭、事業所という3つの異なる場面でどうすれば本人が安心・安全に過ごせるのか。この3つの異なる点を線で結ぶべく、保護者面談と、学校での取り組み等を定期的に情報共有し、本人への支援と繋げています。





放課後等デイサービス「しいのみ園ともたかだ」プレールーム。



放課後等デイサービス「しいのみ園ともみやこ」プレールーム。



カラフルで可愛い季節ごとの壁面装飾をみんなで一緒に作って楽しんでいます。



放課後等デイサービス「ともほんだ」外観。



活動は支援の重要なテーマです。お絵描き遊びの様子。



クレヨンや色鉛筆を使った活動で児童の創造性を育みます。



放課後等デイサービス「しいのみ園ともほんだ」プレールームの様子。



事業所の近くには、豊かな自然がいっぱいです。



真夏の暑さは、大きなプールでふきとばします。



季節を彩る「壁面飾り」もみんなで作ります。秋のみのむしたち。



夏休みには野菜の収穫体験をしています。



暑いときには、みんなで水遊びをして楽しんでいます。



春の園外活動。きれいなお花畑にみんな見とれています。富田さとにわ耕園にて。



初夏の園外活動。貝拾いにみんな夢中です。千葉みなとの人工海岸にて。



秋にはお芋ほり大会。サツマイモいっぱいとれたよ！入所施設の農耕ハウスにて。



冬の園外活動。突然の雪景色に、みんな元気いっぱいに駆け回りました。



室内活動の一コマ。職員が寄り添いながらの動画鑑賞。



室内活動の様子。音楽大好き！ミュージックケアを楽しんでいます。



パズルは人気の室内活動です。好きなパズルを手に取るとあっという間に完成です。



室内活動として、ペープサートを行っています。

第４章

障がい者の自立と社会参加を図るためには、就労の場が不可欠です。心友会ではいち早く就労事業に取り組んできました。平成21年には農業経営基盤化促進法に則り農作業にチャレンジ。並行して入所者の衣類を洗濯するリネン班。以後、平成28年に製菓事業、令和3年には給食事業にも参入、就労継続支援B型事業所「あい」として障がい者の自立と社会参加を後押ししています。





小さなカフェとしてオープンした「ふくろう屋１号店」。現在は休業中。



「ふくろう屋２号店」コミュニティカフェとして地域の方々のつどいの場。利用者様のおやつ作りもしています。



就労継続支援Ｂ型事業の製菓班。計量作業はお菓子作りの重要な工程。慎重に丁寧に計ります。



入所施設しいのみ園のある日のおやつ。柔らかなスポンジで生クリームを包んだロールケーキです。



就労継続支援Ｂ型事業の給食班。食器洗浄作業。大量の食器を大きな機械を扱って洗います。



厨房で働く就労の利用者様を支えるスタッフ。笑顔で優しく厳しく衛生管理から配膳まで助言します。



しいのみ園の厨房では、朝、昼、夕と１年 365 日欠かすことなく 60 ～ 100 食を準備します。



トレーに配膳。とろみ食、きざみ食、普通食、水分量等一人一人に対応しています。



就労継続支援Ｂ型事業のリネン班。１枚ずつ丁寧にたたみ、利用者様のお部屋まで届けます。



洗濯をしながらほころびを点検。ちょっとしたほころびは繕います。



洗濯と乾燥は大型の機械に委ねます。



新聞紙を折りたたんで汚物入れを作成中。老人ホームに納めます。



就労継続支援Ｂ型事業の農作業班。利用者様の働く場、生活介護の日中活動の場にもなっています。



収穫した野菜は、きれいに土を落として袋詰めをします。袋詰めできた！ピーマンピカピカだよ！



厨房やふくろう屋２号店に納める野菜を運びます。野菜を楽しみにしている人たちのために。



ほうれん草はきれいに洗って整えます。丁寧な仕事がほこりです。

しいのみ園創立20周年を祝って

しいのみ園に発展あれ！　栄光あれ！



しいのみ園保護者会
会長 大松初男

しいのみ園創立20周年おめでとうございます。利用者、職員、保護者と共に祝っていきたいと思います。このしいのみ園の創立時は入所定員50名でスタートし、現在はグループホーム、生活介護、就労継続支援、放課後児童デイサービスの事業が加わり、利用者総数百数十名を超える規模に拡大し、地域の福祉拠点として貢献してきております。

さらに利用者への支援の質の向上を目指し、福祉QC活動にも取り組みその成果には目覚ましいものがあります。私も仲間に加えさせていただき日夜議論したことが懐かしく思い出されます。そして関東甲信越大会さらには全国大会での成果発表にも参画し、職員の自信に満ちた発表に心強い思いをいたしました。

しいのみ園の利用者への支援改善への強い思いが伝わってきた瞬間でした。

さて、保護者会においては、平成21年に園部前会長より会長を引き継ぎました。平成24年に体制を再編し、15名の方が役員となり、社会の第一線で活躍している英知と力を発揮していただくことになりました。これまでの主な活動を挙げると、「保護者会だより」の発刊、後見人制度の研修会、ふくろう屋（地域拠点）へのボランティア活動、夏祭りバザーの出店、一泊・日帰り旅行への参加、鍋を囲んでの職員と保護者との懇親会など活気あふれる活動を展開してきました。この度の創立20周年を節目とし、愛するわが子の生活の場をますます幸せの場とするため職員と心ひとつにし、活動を進めていきたいと思います。

しいのみ園に発展あれ！　栄光あれ！　を願いつつ、創立20周年のお祝いの言葉といたします。





しいのみ園の貴重な足跡として
記録に留めさせてください



心の友の会
元会長 園部恵美子

しいのみ園創立20周年おめでとうございます。妹がしいのみ園開園から、74歳で亡くなる令和元年まで、26年間理事長先生始め職員の皆様方には大変お世話になりました。親身の療育のお姿を忘れることはできません。厚く厚くお礼申し上げます。

私は20歳のまだ教師を目指して勉学中に、両親が病死、残された妹は12歳年下の知的障がいを持つ小学2年生でした。悲しいというより「これからどうしよう?」という思いが先でした。そんな中で、今振り返って心が痛むことは、「動作の遅い妹」を叱ったり、「そんな事も分からないの?」と文句を言ったりしたこと。後悔先に立たずです。

知人の紹介をいただき、妹は結婚し15年間の幸せな結婚生活を送りましたが、48歳で夫を亡くし、我が家へ舞い戻ってきました。がこの時私の目の前に一筋の光明が、それは区役所からの電話でした。「しいのみ園が開園されましたので入所しませんか?」と、妹はニコニコ顔で二つ返事でした。しかし、親の愛情を受けずに姉と二人あわただしい環境の中で育った妹は、気が強くわがまま。さぞかし担当の先生方にご迷惑をおかけしたのではないかと想像します。　が、一度もクレームをいただいたことがございません。

保護者会の元役員として、ご挨拶する立場にありながら、苦労話を延々と、そしてしいのみ園への感謝の気持ちがふつふつと沸いてきてしまいました。また心の友の会の皆様にも大変お世話になったことも忘れられません。思い出すままを、しいのみ園の貴重な足跡として記録に留めさせてください。

＊開所当初は保護者会やイベントの参加者が少なく寂しかった。
＊出席率を高めるため家庭に電話連絡するも貴女の仕事ではないと叱責される。
＊会費納入率が5割と低かった。
＊大型車出入りの道路拡張のための地域との会合へ出席する。
＊一泊旅行に毎年参加し、職員と利用者との交流をはかる。
＊女性会長なので、愚痴を言い易いといわれ、相談窓口となる。
＊障がい者自立支援法について勉強会を開催する。
＊職員との理解と交流をはかる。

力不足ながら、上記の事柄について保護者会の皆様のご協力をいただきました。ありがとうございました。

終わりになりましたが、しいのみ園並びに保護者会の増々のご発展を心よりお祈りいたします。





会員よりのメッセージ
「しいのみ園との出会いと今、そしてこれからへの期待」

しいのみ園がベストチョイスで あったと信じています



しいのみ園保護者会
副会長 仙波純一

しいのみ園創立20周年記念おめでとうございます。

私たちとしいのみ園の出会いは、平成19年の春で、息子仙波誠は28歳でした。誠は最重度の知的障がいで長年秦野市にある児童施設「弘済学園」で25歳まで療育を受け、地元の千葉市若葉区に帰って参りました。

地元に帰っても、誠のような最重度の障がい者は日中の受け入れ先はあったものの、お泊り（短期入所）での受け入れるところは全くありませんでした。途方にくれていたところ、区役所より新しい施設ではあるがと「しいのみ園」を紹介してくれました。藁にでもすがる思いで飛び込んだところ、話をすると即受入れを決めて下さいました。あの時の窮状を救ってくれたことは一生忘れない、しいのみ園に徹底的に協力するとその時こころに決めました。以来平成21年には保護者会の役員を仰せつかり、平成25年には当時障がい者福祉の大改革が進行中で、相談支援事業が新しくスタートすることになり、非常勤職員として協力することになりました。息子の将来に備えて定年退職後社会福祉の勉強をし、平成17年の社会福祉士の国家資格を取得していたことで要請があったものと思います。以来利用者の保護者と職員の2足のわらじをはいた立場で協力を続けて参りました。

今までやってきて、社会福祉法人心友会の運営方針には他の施設にはない次の3つの優れた点があると思います。

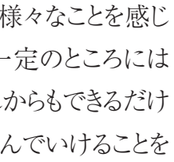
その一つ目は、基本理念「親亡き後の子どもたちの為、国際社会・地域社会で人間らしく、安心・安全・共生できる心豊かな施設作り」にあります。親にとって一番の心配は私達がいなくなったらこの子はどうなるのだろう?親が元気な内にこの理念がゆるぎなく実行されるように協力して行きたいものと考えています。

その二つ目は、障がい者福祉にだけ目をむけるのではなく、高齢者福祉にも視点がいっていることです。利用者も年を取ります、その保護者ももっと早く年を取ります。どうすれば良いか漠然と不安を抱えている人は多いと思います。現在社会福祉法人心友会とは別に理事長が運営している有料老人ホーム「ハートケアライフ誉田」があります。ここにはしいのみ園で高齢化した利用者が既に数人お世話になっております。高齢化した障がい者を受け入れる施設は非常に少なく大変ありがたく感じています。また利用者の保護者もごく限られていますが利用されています。将来福祉法人内に高齢者施設も導入合体することによって利用者も保護者もともに同じ施設で生活できる夢のようなことが実現することを期待しています。

三つ目は新しい発想や国際化を推進しており職員がはつらつとして活気があることです。
トヨタ自動車など事業会社で浸透している業務改善の手法として定着している「QC（品質改善）」を福祉の現場に導入していることです。定期総会の場でも何回か発表を聞きましたが、福祉の場でも数値的に追っかけて改善効果をあげていることに感嘆しました。また現在のしいのみ園には外国の籍を持つ人が10人を超えるようになっています。外国の方も大変熱心に取り組んでくれていて親としても大変ありがたく思っています。

私と息子にとってしいのみ園はベストチョイスであったと信じています。私は今年で80歳を迎えました。まだまだしいのみ園のために頑張っていきたいと思っています。

ミュージックケアという音楽療法にめぐり逢い



しいのみ園保護者会
理事　恒川禎子

この度はしいのみ園創立20周年、誠におめでとうございます。18歳の頃からお世話になっている息子はもう37歳になります。頭の中に良性腫瘍を生まれ持った息子は知的障がいを伴う難治性てんかんと診断され、16歳の時脳神経外科で腫瘍切除手術を受けましたが、完全に取り除くのは難しく、てんかんの発作も残ってしまいました。市原養護学校（現市原特別支援校）高等部卒業後は施設への入所を希望し、自宅から近かったしいのみ園にショートステイさせていただき、不安はありましたが、園の雰囲気や施設長さんをはじめ職員の皆様の和やかで細やかな対応に背中を押され希望し、幸いなことに卒業後間もなく入所することができました。その後、なるべく一般社会に近いグループホームや通所施設で過ごす方が息子に合うかもしれないという考えも、園の発展とともに実現していき、ともに過ごしてくれる利用者の皆様や職員の方々のおかげで、息子の確かな居場所となり、現在に至っています。

お世話になっている19年の間で、保護者として息子と、園の様々な活動や行事に参加しました。バーベキュー大会や夏祭り、お芋掘り、お餅つき、一泊旅行、そして忘れられないのは新年会とともに催される成人式です。

息子にいつも寄り添ってくれる職員の皆様からの心温まる想いを受け取らせていただいたことは、心に深く残っています。

そしてこの間に私自身も保護者会の役員としてかかわらせていただいたり、園が取り入れているミュージック・ケアという音楽療法にめぐり逢い、ミュージック・ケアを通して、利用者の皆様とかかわることを園に受け入れていただけたのは大きな変化でした。

しかしこのところ、コロナ禍の世の中の動きに伴い、外部から園と関わっていくことはなかなか難しくなってきています。この間も変わらず息子を支えていただいていることに感謝するとともに、現状を見極めながら、話し合う努力をすることの大切さもより感じるようになりました。息子自身も様々なことを感じたり、年齢的な変化もあったりと、一定のところには長く留まってくれてはいません。これからもできるだけ協力しながら、園の皆様とともに歩んでいけることを願っています。

最後に、これからのしいのみ園のさらなる歩みと皆様のお幸せを心より願い、お祝いのメッセージとさせていただきます。

利用者にとってより良い施設になると共に、職員の皆様にとって更に働き甲斐のある職場となる明るい未来を展望します



しいのみ園保護者会
監事 平川博

両親が共に身障者で、高齢化するに連れて、息子の面倒を家庭で見ることができない状態になっていることを、職員の皆様全員にご理解頂き、心から感謝しています。

息子は精神的に情緒が不安定な時があって、親として恥ずかしながら持て余すことが多かったのですが、入所してから適切な診療を受けながら、職員の皆様の温かいご指導の下に、大過なく日常生活を送っており、嬉しい限りです。

本人は内気で、鬱憤が溜まると暴れることがあるので、担当者には憂さ晴らしの機会を作ったり、ことある毎に息子の意向を確かめたりして頂き、頭が下がる思いです。入所した時は二十代で子供っぽい言動が多かったのですが、三十代になってから、漸く大人びて来て、これもひとえに職員の皆様のお陰です。入所した当初は、新年会のような保護者が参加するイベントが終わった後、帰宅する利用者がいることもあって、親のそばから離れようとしなかったので、通りがかった職員に手助けして貰ってばかりしていたのですが、数年前から、職員の誘導が始まると、進んで親元から離れて行くようになりました。一抹の寂しさを感じますが、遅ればせながら訪れた巣立ちに感慨もひとしおです。

このようにわが子に限らず、すべての利用者について、職員の皆さんが情報を共有し、それぞれの個性に合わせて対応して頂いている姿を見かける度に、良い施設に巡り合うことができて、本当に良かったと思います。しかも両親が家庭で対応できない状況に応じて、親代わりになって頂いており、親子ともども職員の皆様を頼りにしています。

ところで、数年前に大型台風により大規模な停電と断水が発生した時は、電気と水道という二大ライフラインの確保に、職員の皆様が奔走して下さったお陰で、乗り越えることができました。調理ができないので、食事や飲料の手配も、買い出しや救援で何とか凌いだとのことでした。電話やメール等の通信手段が使えなくて、保護者も困りましたが、職員の皆様の困惑は察するに余りあります。

また、ノロウィルスや新型コロナに利用者が集団感染した時は、感染した職員の皆様には自分自身だけでなく利用者の療養という重荷をご負担頂き、心身共にご苦労様でした。

その後も新型コロナの流行は続いていますが、感染防止対策を講じながら、利用者が楽しみにしている夏祭や花火大会、一泊旅行を実施して頂き、利用者が楽しんでいる写真を拝見して、心が和みました。恒例の行事が中止になると、息子もその一人ですが、ひどく落ち込んでしまう利用者がいますので、今後も可能な範囲で継続をお願いします。

ところで、数年前に職員・保護者の懇親会を三回実施した後、新型コロナの流行で、中断が続いていますが、職員の皆さんと日常生活の様子やエピソードを話し合っている内に、心が通う良い機会となりました。以前は保護者と利用者が参加するイベントで職員の方と身近に接することがあっても、保護者も職員も利用者に目が向いていて、打ち解けて話す機会はありませんでした。飲み会ではなく、食事会というのも、良い企画だと思います。新型コロナが終息したら、復活することを期待します。

やがて両親が老人福祉のお世話になる時が来ます。その頃には、理事長さんが構想なさっているように、保護者がしいのみ園グループ内の高齢者介護施設を利用して、親子で仲良く過ごすことができるようになることを期待致します。

ここまでしいのみ園開園二十周年記念のメッセージを綴って来ましたが、息子がつばさというケアホーム（現在はグループホーム）の利用者となってから十年であり、それ以前の十年間は空白です。恐らく最初の十年間は、新しい組織の基礎固めで費やされたことでしょう。息子が利用者となってから後の十年間は、様々な行事は恒例となり、職制も確立して来たように見受けられます。

今後は、発展段階に入り、利用者にとってより良い施設になると共に、職員の皆様にとって更に働き甲斐のある職場となる明るい未来を展望します。

高齢化問題の解決、実現に期待したいです



しいのみ園保護者会
理事 田邉ゆき子

息子が誕生し31年が経ちました。障がいがあると分かった日からいろいろな思いが頭の中で巡り悩みながらの子育てで日々向き合っていました。発達は遅く表情がなくて心配しましたが、学校生活において関わってくれた方々のおかげでできることが増え、表情が豊かになり人との関わりが好きになりました。初めて笑顔を見た時は幸せな気持ちになりました。同じ境遇のお母様方との出会いでその明るく前向きさに励まされ、人とのつながりの大切さを実感し、勇気をもらいながら頑張ってこられました。「障がいは個性、みんなちがってみんないい」という言葉にとても救われた思いでした。

児童デイサービスの利用を考えていた時、しいのみ園のことを知り、利用することになったのがきっかけでした。そして、高等部卒業とともに平成22年4月しいのみ園こころに通所することになりました。人が好きで関わりたい気持ちが大きくて、コミュニケーションの手段である言葉は話せないのですが、近くに行って話を聞くことや肩をトントンと叩いて呼ぶこと、また身振り手振りでコミュニケーションをとっています。手加減を知らないので、行き過ぎて失敗することもありますが、見守りや本人の気持ちに寄り添った対応をしていただいています。いまだにできないことがありますが、ちょっとした声かけや補助があればできることもあります。これからも好きなことにチャレンジして関わってくれる方々と楽しく過ごしてもらいたいです。

以前は、しいのみ園の行事に親子で参加させていただき、1年を通して職員の方々と共に楽しめていましたが、今はコロナの影響により行事が殆どできない状況なので、徐々に再開ができることを願っています。必要な福祉サービスが受けられることで家族それぞれの時間を持つことができ、本当に助かっています。通所できる場所があることはありがたいことです。

しいのみ園創立20周年を迎えることおめでとうございます。しいのみ園では、いろいろなことに取り組まれ実行されてきているので、今後とも困っている人の声に耳を傾けながら進んでいって欲しいと思っています。高齢化問題の解決、実現に期待したいです。



ああ順調に生活できている ここで大丈夫



しいのみ園保護者会
副会長 長安誠



しいのみ園保護者会
理事 長安貴子

この度は社会福祉法人心友会が20周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

息子、潤がしいのみ園に入園したのは13年前の平成21年4月です。特別支援学校卒業後すぐに始まった園生活でしたが、息子はすんなりとなじんでいきました。当時は家内が闘病生活で自分達自身のことでいっぱいいっぱいだったのですが、スタッフの皆様の温かいサポートによって、"ああ順調に生活できている、ここで大丈夫"と感じては感謝で涙した日々を今でも昨日のように思い出します。あれから13年、園で成人式を祝っていただいたり、旅行に連れて行ってもらったり、運動会もありましたね。コロナ禍で行事は減ったとはいえ毎年のようにお祭りやお花見、もちつき大会等々、潤は楽しい経験をたくさんさせていただいております。また、大震災や台風などの災害時、そしてこの度のコロナ禍において、職員の皆様も大変でしたであろうに、寄り添ってくださったおかげで潤は安定した生活を送ることができています。感謝の念でいっぱいです。

親として保護者会として、できるだけ協力してまいりたいと思うばかりです。こんなに素晴らしい素敵なしいのみ園、障がい者施設の全国のモデルになりうると思っています。心友会のますますのご発展と職員の皆様のご健勝を、心よりお祈り申し上げます。

いつも職員さんに感謝、感謝をしています



しいのみ園保護者会
理事　井芹恭子

しいのみ園20周年おめでとうございます。
今コロナの大変な時期に、たくさんの職員の皆さんに支えられて本当にありがとうございます。

いつも「こころ」でお世話になっていますが、本人は前はよく「仲間がいるから行くんだよ」と言っていましたが、でも残念ながらコロナが流行はじめた頃からは言わなくなりました。今も本人のペースでやってもらっていますので大変助かっています。今までの季節のお楽しみもあまりできなく残念です。

先のことはよくわかりませんが、少しでも本人が幸せを感じてくれる時間が増えればと願っています。将来のことをいろいろ考えると悩みはつきませんが、安心して生活が続くことを願っています。

これからもしいのみ園の皆さんにはお世話になりますがよろしくお願いします。また、親も子どもも体を大切にしていかなくてはいけないと思います。いろいろとお手伝いもできませんが、いつも職員さんに感謝、感謝をしています。

手を取り合って将来を生きてゆく



しいのみ園保護者会
会計 田所稔寛



しいのみ園保護者会
理事 田所勢子

私は、当時定年間際の企業戦士、ほとんど家庭を顧みず働いておりました。

一方母親は、いっときもジッとしておられない壮年期を迎えた多動なる息子と格闘しておりました。家にいることなく「今日はどこへいったやら」という状態でした。自動車や電車を乗り継ぎ、あちこちの公園、動物園、水族館等々その日暮らしをしており、真っ黒に日焼けし疲労困憊のありさまでした。

施設入所を、前々から切望しておりましたがかなわず、当時「入所は宝くじに当たるようなものだ」と言われておりました。このため定年になったら、二人手を携えて面倒を見ようと覚悟をしておりました。突然、しいのみ園への入所の連絡を受けました。驚きと喜びはたとえようもありませんでした。これが出会いであります。

当時は措置制度の中にありました。国の責任の下、しいのみ園と私どもが手を取り合って将来を生きてゆくという希望が実現し安堵を覚えました。

ところがしばらく経って、障害者自立支援法なるものが降ってわいたような感じでてきました。国の財政が困難となり、障害者種別を一元化しようとする考えです。全国共通の尺度として「障害区分」を導入するなど中身を見ると知的障がい者に当てはまる内容なのかなと戸惑いを覚えつつどんどん進められておりました。そのような法制の混乱期?の中でも施設の皆さんは、夏祭り、運動会、旅行会、新年会など、色々な行事を企画し私どもを含め利用者を楽しませていただきました。

私の子どもの精神的・身体的トラブルが発生するつどしいのみ園あげて心を込めて対処いただきました。ありがたく感謝申し上げる次第です。今は施設の生活を大いに満喫しております。また、定期的な健康診断、歯科の検診、などなど資料が送られてきます。細かな健康への目配りをしていただき、安心してお任せさせていただいております。

私どももいつのまにか高齢になってしまいました。今、しいのみ園が構想を練っている高齢者施設がいつか完成し、親子ともどもその中で明るく元気で楽しく過ごせればというのが今後の期待と希望であります。





保護者会のあゆみ

（1）保護者会・役員推移

平成15年4月1日から「心の友の会（後援会）」としてスタートしましたが、平成24年4月1日から「しいのみ園保護者会」に再編して新しくスタートをきりました。……

	第1期	第2期	第3期		第4期	第5期	第6期	第7期
	心の友の会	同左	同左		しいのみ園保護者会	同左	同左	同左
	H16−H17	H18−H20	H21−H23		H24−H26	H27−-H29	H30−R2	R3−R5
会長	村山　徹	園部恵美子	大松初男	会長	大松初男	大松初男	大松初男	大松初男
副会長	園部恵美子	石川洋一	石川洋一	副会長	仙波純一	仙波純一	仙波純一	仙波純一
	石川洋一	三俣啓一	三俣啓一		長安　誠	長安　誠	長安　誠	長安　誠
		秋庭礼子	仙波純一	会計	田所稔寛	田所稔寛	田所稔寛	田所稔寛
			園部恵美子		大本博次	平川　博	平川　博	
			(H23)長安　誠	監事	三俣啓一	三俣啓一	三俣啓一	山本一成
			(H23)大本康子		園部恵美子	園部恵美子	山本一成	平川　博
会計	田所稔寛	田所稔寛	田所稔寛	理事	長安貴子	長安貴子	長安貴子	長安貴子
	(H16)馬場眞子	亀井昌子			田所勢子	田所勢子	田所勢子	田所勢子
	(H17)喜多村陽子				掛巣秀男	恒川禎子	恒川禎子	恒川禎子
監事	後藤康晴	後藤康晴	後藤康晴		恒川禎子	山本一成	井芹恭子	井芹恭子
					山本一成	井芹恭子	牧野芳明	田邉ゆき子
					秋葉久子		田邉ゆき子	
					泉　好純			
					齋藤正美			

（2）しいのみ園保護者会会報「しいのみ」

平成24年4月1日から従来の後援会「心の友の会」から新しく「しいのみ園保護者会」が分離しスタートをきるに当たって、会員間のコミュニケーションの向上のため保護者会だより「しいのみ」を創刊しました。

発行号	発行年月	主要記事	その他
創刊号	2012.10.1	1. さあ、出発しよう、理想の社会福祉をめざして（大松会長） 2. 心ひとつに（武田理事長） 3. 平成24年度定期総会「新しい役員体制が決まる」 4. 特別研修　親なき後を考える（福岡評議員・弁護士）	1. 家族会連合会に参加 2. ほんだ旅行記 3. しいのみ園行事参加報告
第2号	2013.5.1	1. 子どもたちに幸せな生活を（仙波副会長） 2. しいのみ園新事業紹介「就労継続支援B型事業」 3. 成年後見制度先進事例研修（いすみ学園）	1. 24年度後半行事 2. 新入職員紹介 3. 会員訃報
第3号	2013.9.1	1. おかげさまで大盛況！！　しいのみ園なつまつり 2. 平成25年度保護者会定期総会 3. 福祉ショップ「ふくろう屋」正式オープン	1. 25年度後半行事予定 2. 歌手安部里葎子さん来園 3. 童謡コンサート開催
第4号	2014.6.30	1. 平成26年度定期総会報告 2. 成年後見制度調査報告と今後の方針 3. セミナー「施設での虐待をなくすための保護者の役割」 4. ふくろう屋ボランティア奮戦記	1. しいのみ園夏祭り募集 2. 福祉ショップ＆喫茶ふくろう屋ボラ募集

発行号	発行年月	主要記事	その他
第5号	2015.6.30	1. 平成27年度定期総会報告 2. 研修会参加報告①、②、③、④ 3. ミュージックケアーに参加して	1. しいのみ園夏祭り募集 2. 福祉ショップ＆喫茶ふくろう屋ボラ募集
第6号	2016.1.1	1. 新年を迎えて！しいのみ園は大きく変わる年に（理事長） 2. 心友会地域包括支援事業の展開について 3. 進むしいのみ園の国際交流（海外からの職員紹介） 4. 国際交流にかける想い（武田理事長に聞く）	1. 保護者ボランティア・しいのみ園行事参加報告
第7号	2016.9.25	1. しいのみ園夏祭り2016年8月7日　於こころ 2. 熊谷市長をお迎えしてしいのみ園福祉のまちづくり支援室が開所 3. 研修会参加報告（その1，その2，その3）	1. 保護者会28年定期総会 2. 園芸班活動開始 3. G・Hさくら寮オープン
第8号	2017.1.1	1. しいのみ園より新春のご挨拶を申し上げます（年賀状） 保護者会役員会・心友会・農耕班・林産班・室内活動班・園芸班・こころ・こころの都・ともたかだ・ともみやこ・リネン班・まちづくり＆ふくろう屋 2. なんとかなるさ　「私の九十年の人生（監事　三俣啓一）」	1. 新成人紹介
第9号	2018.1.1	1. しいのみ園より新年のご挨拶を申し上げます（年賀状） 心友会・入所1寮・入所2寮・あゆみ寮・のぞみ寮・つばさ寮・ひかり寮・さくら寮 2. 新春インタビュー　理事長　新春の夢を語る	
第10号	2018.6.30	1. 平成30年度定期総会報告・30年度新役員体制 2. しいのみ園保護者会を振り返って（元会長　園部恵美子） 3. 笑顔・笑顔のバーベキュー大会	1. しいのみ園夏祭り募集 2. 30年度年間行事
第11号	2019.1.1	1. 新年のご挨拶（心友会　武田理事長） 2. 新年のご挨拶（保護者会　長安副会長） 3. 生活介護新事業所「誉」 4. 入所新棟「絆」	1. バス旅行がかわりました 2. 保護者旅行記 3. 祝成人・祝傘寿
第12号	2019.10.15	1. 令和元年度定期総会開かる 2. 第1回しいのみ園職員と保護者との懇親会 3. 2019しいのみ園夏祭り特集	1. 新生活介護事業所「こころの誉」活動開始 2. 入所新棟「絆」完成 3. 台風15号被害状況報告

（3）保護者会ボランティア活動

保護者会有志による月1回程度のボランティア活動を開催しました。四季折々の花壇整備、6月のじゃがいも堀大会、10月のサツマイモ堀大会さらにはお母様方による利用者衣類の繕いに汗を流しました。



正門前の花壇整備の状況





10月のサツマイモ堀大会、大きな芋がとれました。

（４）しいのみ園行事への参加

①お花見会（4月）

事業所近くの公園（泉公園、平和公園など）で、さくら咲く４月のはじめ頃、保護者手作りの弁当をもってお花見に出かけました。



②定期総会後のバーベキュー大会（5月）

保護者は午前中は定期総会で年度の事業計画および予算案の審議に集中（？）しますが、昼からは利用者お待ちかねのバーベキュー大会です。バーベキューを食べながら、職員と利用者の太鼓の演奏を楽しんだり、ビンゴゲームなど楽しんだり楽しいひと時を過ごします。もちろん利用者は保護者会よりの無料招待となっています。


午後はバーベキューで盛り上がり


保護者は午前中定期総会

③利用者バス旅行会（6月～11月）



事業所ごとに分かれて、利用者の状況にあわせたバス利用による一泊旅行または日帰り旅行が計画されます。
主として伊豆方面、鬼怒川温泉方面が主体でしたが、近年ではしいのみ園が購入した中型バス（２９人乗り）利用により千葉県内の旅行を楽しんでいます。保護者も毎回参加しともに楽しんでいます。
以下は保護者による旅行記の一端です。

「富士山が見えるよ！」

四ホーム合同熱川温泉一泊旅行の幕開けです。
『みんなのハワイアンズ』では、レイを胸に記念写真。美しい洋ランやジャングルのような温室を見学しました。ホテルでは、海の幸豊富な夕食とカラオケで大宴会。一体感が生まれました。翌日訪れた熱川バナナ・ワニ園では、多くのワニにビックリ。それぞれに良い経験ができ、楽しい旅行となりました。旅行期間中の細やかな心遣いなど、職員の皆さまには大変お世話になり、どうもありがとうございました。（文責 恒川禎子）

④夏祭り＆バザー


統一のエプロン姿で頑張っています


提供を受けた数々のバザー商品

毎年夏のお楽しみは地域にて開催される夏祭りとなっています。保護者会は会員の皆様方のお宅に眠っている食料品、衣服、おもちゃなど日用品の提供を受け、保護者バザーのお店をだしています。利用者のご家族や近隣の地域の方にたくさんお買い上げをいただいています。もちろん売り上げは全額しいのみ園に寄付をしています。

⑤もちつき大会（１２月）

冬季帰省前の楽しい餅つきです。お父様方は慣れない手つきとへっぴり腰で挑戦しますが、長続きはしません。結局若い職員へSOS。
お母様方は利用者へのおもちの提供サービスです。あんこもちにきな粉もちなど種類も豊富、旺盛な利用者の食欲にてんてこ舞いです。


利用者サービスにてんてこ舞いのお母さん


大松会長と田所さん頑張って

⑥新年会＆成人式（１月）

毎年年明けのお楽しみは新年会です。
利用者・職員・保護者が一堂に会して新年と成人のお祝いをする会となっています。
以前は保護者会も寸劇を出したりしたこともありましたが……。



平成２５年実施の寸劇「大きなかぶ」

(5)職員・保護者の懇親会の実施（令和元年６月，11月，令和２年２月）









令和元年に初めての試みとして、保護者会主催での、職員の皆さんと保護者会会員との懇親会が、６月、１１月、２月と３回開催されました。
１２時頃から三グループに分かれて「鍋」を協力して作りながらの懇親会のスタートです。いつもお世話になっている職員の皆さんに楽しんでいただき、コミュニケーションをとることで、お互いの距離を縮め、理解を深める中で、より良い関係を築いていきたいというのが懇親会の目的であり、保護者会の願いでもありました。
　鍋を囲みながら、それぞれのグループで和気あいあいとした時間が流れ最後の一言スピーチでは、皆さんがより身近に感じられました。

第５章

当法人では基本理念にある通り、国際社会との共生を掲げています。そのため、国際交流、国際貢献と位置付け韓国からの留学生、外国人介護福祉士候補生、特定技能外国人受入を積極的に行っています。在籍する職員の国籍は、韓国、フィリピン、台湾等、国際色豊かな法人です。また、フィリピンの児童養護施設、精神障がい者施設等に毎年表敬訪問し、国際交流を積極的に行っています。





心友会と韓国の瑞江大学との産学連携協約締結。



心友会の理事長と韓国の瑞江大学の学長代理が産学連携協約締結した際の写真。



韓国の老人施設の見学の様子。



エムマウス福祉館見学後、記念品を贈呈。



フィリピンの児童養護施設にて。



フィリピンの施設を訪問した際、児童の皆さんからウエルカムボードで歓迎を受けました。



フィリピンでの多くの児童とのふれあいは、私たちにとって重要な体験でした。



フィリピンの児童と職員のスマイルショット。笑顔は世界共通のコミュニケーションツールかもしれません。



タイ研修の帰国後、タイからの研修生とともに。



韓国研修では、こころ尽くしの歓迎をいただきました。



EPA で介護福祉士の資格を取得して、利用者支援の第一線で活躍している候補生も多くいます。



しいのみ園夏祭りでフィリピンのダンスに取り組んでいる EPA 候補生。



横浜の研修センターにて、ＥＰＡ外国人介護福祉士候補生とともに。



フィリピンの児童施設などを表敬訪問し、国際交流を積極的に行っています。



12 月のクリスマスシーズンにフィリピンの児童施設を訪問しました。



心友会では、国境を越えた人的・文化的交流を目的とした国際交流を積極的に行っています。



千葉市とフィリピンのケソンシティは、姉妹都市です。ケソンシティ障害福祉課を表敬訪問しました。



フィリピンのナヨン ナン カバタアン児童施設にて。



フィリピンの児童施設などを表敬訪問し、お菓子や遊具をプレゼントしています。



フィリピンの児童施設では、児童ひとりひとりにプレゼントを手渡しました。

第6章

障害者総合支援法が施行され、共生社会の実現に社会福祉法人の役割が期待されています。心友会では、制度と制度のはざまで福祉サービスが届かない方々に寄り添うため、平成27年から公益事業に取り組んでいます。旧市街地にコミュニティカフェを開設し、地域のかたがたのつどいの場、子育てに悩む保護者への寄り添いの場、不登校の子どもたちの居場所、学びの場として活用しています。





ふくろう屋２号店２階の内装作業。壁一面に苦労しながらホワイトシートを貼りました。



内装作業をするボランティアさん。ふくろう屋２号店は開設前から様々な方々に支えられています。



不登校の子どもたちの気持ちに寄り添える場を創りたい。そんな思いで研修会を重ねました。



ふくろうカフェに集う高齢者の皆様とともに始めた健康体操。指導は緑区健康課の保健師さんです。



ふくろう屋で初めて行った消防訓練後の消防士さんとの振り返り。気づきがたくさんありました。



しいのみ園の利用者さんが創作した陶芸やビーズ作品。カフェに訪れた方々が購入してくださいます。



親子ミュージックケア。新聞びりびりは楽しい活動です。



夏休み陶芸作業は、子どもも大人も一緒になって。このあと、カレーライスをみんなで食べました。



ジャンベを叩き、リズムに合わせて踊る。言葉は無くてもこころは一つの音楽会。



ジャンベ奏者のモフランさんを迎えて。音楽会後の記念撮影。



千葉市緑区のおゆみ野の森を会場として不登校の子供たちの居場所づくりを行っています。



体を思いっきり動かす時間は子どもにとって大切な時間。森での綱引きは人気プログラムです。

未来へ

20年間地域の方をはじめとした多くの方に支えられ
歩んでくることができました。
これからは、私たちが地域の方に恩返しをするため、
老人ホームの建設と、ふくろうや2号店の移設を2023年度から計画いたします。
老人ホーム建設では、団塊の世代が後期高齢期を迎え
施設としての受け皿拡大や、障がいを有していても入居できる施設づくりを、
ふくろうや2号店移設では、地域のコミュニティ施設の充実化が期待できます。
「しいのみ園こころの都」、「しいのみ園ともみやこ」の事業所移設については、
2023年度中の移設を視野に、様々なニーズを要する利用者様に対応するため
バリアフリー化等をはじめとした施設の充実化を図ります。
長野事業所の新規開設については、長野の雄大な自然の中で、
人間らしく活き活きとした生活を利用者様といっしょに過ごす
という夢を持ち計画をはじめたところです。



生きるを支える

障がいを有している方が、老齢を事由として障害者支援施設で過ごすことができなくなった時のために老人ホームを設立します。

知的障がいを有している方が、老齢を事由として障害者支援施設で過ごすことができなくなった時、老人ホームに入居できないという現実が存在しています。知的障がいがある方を受け入れたことがない等の理由から入居を断られるケースが多いため、障害者支援施設利用者の高齢化が問題となっています。

この問題を解決するために、私たちは将来、知的障がいを有している方でも入居できる老人ホームの建設をすることをここに宣言します。私たちは、障がい者支援の職員達に、介護福祉士や、社会福祉士といった国家資格取得の奨励をし、正職員の介護福祉士取得率は100%となります。

このことから、私たちは、障がい者支援のみならず、介護職員としてもプロフェッショナルであり、老人ホーム建設の際の職員確保も問題とならないと考えています。更には、障害者支援施設時代の職員が老人ホームで介護することにより、何よりも本人が一番安心することでしょう。

地域とともに



誰もが分け隔てなく暮らせるためのサスティナブルな地域共生社会を目指し社会公益事業の充実を図ります。

2021年晩夏、宅地開発により命の灯が消える運命にあった樹齢60余年の桜の古木の受け入れは、さまざまな方々の協力を得て成し遂げた一大事業でした。環境の変化を耐え抜いた桜の古木は、2023年春には力の限り小枝を伸ばし、花芽をつけました。

2015年より地域包括支援事業「福祉のまちづくり支援室」を設けて地域における公益的な取り組みをすすめてきた私たちは、桜の古木を受け入れることで、自然を愛し、命を守り、未来へつなぐことの厳しさと優しさを体験し「つながって共に生きる」を実感しています。

JR誉田駅南口のコミュニティカフェ「ふくろう屋2号店」は、誉田駅前広場、南口の整備も進む中で2023年度から移設を進めます。この先少子高齢化・人口減少などを踏まえた福祉ニーズに対応した更なるサービスの充実が求められています。私たちはこれまでの取り組みを通して蓄えたノウハウと桜の教えを生かして、誰もが分け隔てなく暮らせるためのサスティナブルな地域共生社会を目指し社会公益事業の充実を図ります。

守り育てる



お預かりする利用者様ひとりひとりの安心・安全を確保するために

千葉市中央区都町に位置する生活介護事業所「こころの都」と放課後等デイサービス事業所「ともみやこ」の施設のある場所が、千葉市の土砂災害警戒区域に指定されました。土砂災害警報が発令された場合、即座に避難しなければなりません。

今後の利用者様と職員の安心・安全を確保するために、二事業所の移転を本格的に進めることとなりました。現在、既存の建物をリフォームしながら利用しておりますが、利用者様がよりのびのびと活動しやすい環境をつくるためにも、土地を購入し、新たに建物を建てる計画を立てています。場所、広さ、周囲の環境を加味しながら、しいのみ園から車で十分程にある、千葉市緑区平山町の候補地（約六三〇坪）を検討中です。二階建て（一階は成人、二階は児童利用予定）で駐車場も広くとれます。ゆくゆくは隣地にグループホームも建て、心友会の理念にもある「親亡き後」を見据えながら事業を継続して参ります。

安らぎをつなぐ

新たなる挑戦と思いの継承、そして地域貢献へ。

心友会としては、初めて他県への挑戦になります。実は、心友会を立ち上げるにあたり、モデルとして常に参考にしてきたのが、長野県にある【社会福祉法人　親愛の里】でした。初代の理事長でもあった加藤孝正氏は、心友会との親交も深く何度も足を運び、職員育成の為に尽力して下さっていました。心友会の創立者でもある武田昇理事長と親愛の里初代加藤孝正理事長との思いを形として実現するために、20年の時を経ていよいよ新規事業計画が動き出しています。

心友会としてのミッションは、親愛の里と一緒に障がい者のみならず保育・福祉・医療を支える一角を担う事。心友会が大切にしてきた価値、それは『初心を忘れず』「心ひとつにONE　TEAM」「国際社会」「マニュアル化」「業務改善」。価値観を土台とした一貫性のある事業運営を目指します。そして、利用者様ひとりひとりの幸せの為に、地域と共に生きる・地域で暮らすことを大切にした事業を展開していきます。基本理念にもあるように、親亡き後の安心・安全に生活できる居場所づくりを掲げ支援していきます。

われらの しいのみ園

【しいのみ園 園歌】

作詞　たみや　たえこ
校閲　武　田　　昇
作曲　木　元　　孝

1.　元気な声が　高田の空に　響くよ響く
ナスにシイタケ　生活班と林産班
お花とショップは　園芸班と就労班
福祉の居場所　ふくろう施設は　しいのみ園
みんなの力が　大きく育つ
われらの　われらの　しいのみ園

2　大きな希望が　地域の心に　広がるよ　広がる
一人でふらりと　心のよりどころ　ふくろうショップ
明るく楽しい　仲間のつどい　ふくろうカフェ
福祉の居場所　ふくろう施設は　しいのみ園
みんなの力で　世界に広がる
われらの　われらの　しいのみ園





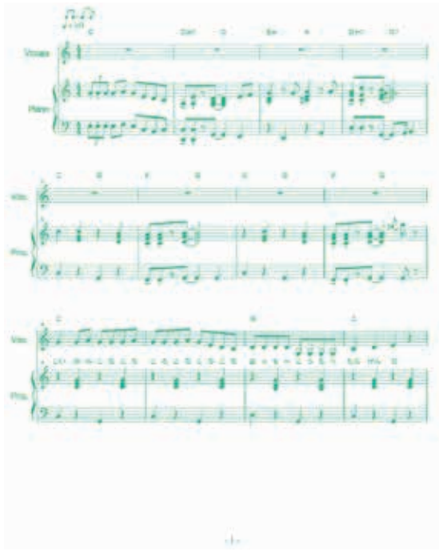
楽しい　とも〈放課後等デイサービス〉

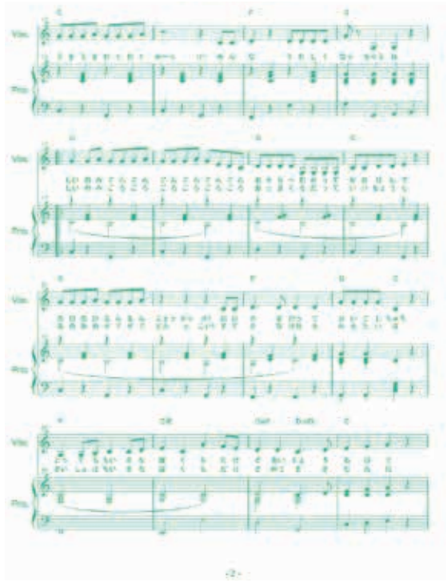
作詞・作曲なげのあやか　　歌　なげのあやか
タイトル考案武田昇

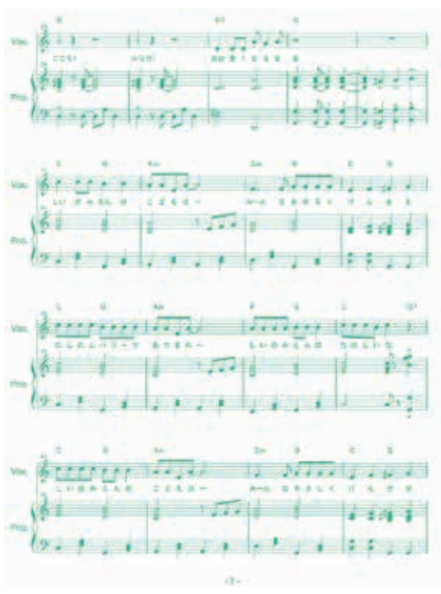
しいのみ ころころ ころころ ころころ
あっちへ こっちへ たんけんだ
うきうき わくわく みーっけ！
みんな うれしく なっちゃうね！
しいのみ ぐんぐん ぐんぐん ぐんぐん
おそらへ おそらへ せのびして
のびのび るんるん にょっきっき！
おひさま だって おいこしちゃう！
とっても ちいさな ぼくら
だけど あいじょう あびて

こころ！ からだ！ おおきくなるなる
(☆)しいのみ園の こどもは
みんな あかるく げんきさ
にこにこ パワーで あつまれ
しいのみ園は　たのしいな
(★)しいのみ園の こどもは
みんな やさしく げんきさ
うきうき パワーで あつまれ
しいのみ園は　たのしいな

しいのみ　ごろごろ　ごろごろ　ごろごろ
おっきく　そだって　いいちょうし
あめあめ　ザアザア　どんとこい！
すてきな　はなを　みせたいな
さいしょは　ちいさな　ぼくら
だけど　ゆうきを　むねに
こころ！　からだ！　おおきくなるなる
(☆)(★)繰り返し
しいのみ園に　みんなおいで









編集後記

「しいのみ園」開所からの20年は、私たちの財産です。この記念誌は、これまでにご協力いただいた多くの皆様に感謝申し上げると共に、20年の歴史を後世につなぐこと、そして私たちが、これから先をどう歩んでいくのかが見える決意表明となる構成を考えました。

作成においては、多くの資料や膨大な写真の確認作業をしてきました。そうした中で設立当時の活動風景や行事の様子、そして利用者の皆様の生き生きとした表情を垣間見ることができ懐かしさを覚えるとともに勉強にもなりました。

設立当時在籍していない編集委員もおり知らないことが多々あり内容的に不十分なところもあるかもしれません。それでも、この記念誌を手にした方ひとりひとりが、「しいのみ園」の理解を深めるとともに、これから先に向けて新たな価値を見出し今後の社会福祉法人　心友会の発展につなげていただければ大変ありがたく存じます。

最後になりますが、寄稿文を寄せてくださった保護者会の皆様、未来に向けての原稿を執筆くださった方々、その他本記念誌の作成に関わったすべての方々に心より御礼申し上げます。

広報委員長　宇留間俊行

社会福祉法人　心友会　しいのみ園　20周年記念誌
SHIINOMIEN 20th ANNIVERSARY!

令和5年4月1日発行
発行人　武田 昇
編集委員　高見 正　中根 慶太　福谷 章子　岩沼 圭子　亀井 昌子　宇留間 俊行
制作　合同会社 リードエージェント

社会福祉法人　心友会　しいのみ園
〒266-0003 千葉県千葉市緑区高田町1953番地1
TEL.043-291-2941　FAX.043-291-2181

SHIINOMIEN 20th ANNIVERSARY!

社会福祉法人　心友会　しいのみ園　２０周年記念誌

心友会は、千葉県福祉サービス
第三者評価を全事業所で受審済です

社会福祉法人 心友会
〒266-0003 千葉県千葉市緑区高田町1953番地1